

一般社団法人

くすりの適正使用協議会

1989年5月29日、参加企業11社により日本RAD-AR*協議会として創立されました。



Vision ↑

誰もが健康な生活を実現するため、
信頼できる情報をもとに判断し、
行動できる社会を目指す。

Mission ↑

信頼できる情報を作ります
繋ぎます
広めます

信頼できる情報の見分け方を広めます
作り方を広めます

中期活動計画 “MIRAI 20-22”

MIRAI : Medicine Information- Reliable, Accurate and Informative

当協議会は、上記ビジョン及びミッションのもと、中期活動計画 “MIRAI 20-22”を策定し、信頼できる医薬品情報提供サイトの構築と公開を最優先の事業とし、「信頼できる情報を届ける基盤作り」を全体目標に活動します。

Theme ↑

信頼できる情報を届ける基盤作り

会員一覧

■ 製薬企業会員 24社

旭化成ファーマ株式会社
アステラス製薬株式会社
アストラゼネカ株式会社
アップヴィ合同会社
エーザイ株式会社
大塚製薬株式会社
小野薬品工業株式会社
キッセイ薬品工業株式会社
協和キリン株式会社
興和株式会社
サノフィ株式会社
塩野義製薬株式会社

第一三共株式会社
大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
東和薬品株式会社
日本新薬株式会社
ノバルティス ファーマ株式会社
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
マルホ株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社

■ 賛助会員 6社・1団体

株式会社EMシステムズ
株式会社グッドサイクルシステム
シミック株式会社
シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社
株式会社ズー
日本OTC医薬品協会
日本医師会ORCA管理機構株式会社

■ 個人会員 9名

■ 特定会員 174社

※2020年4月現在

所在地

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町12-7 日本橋小網ビル3階
TEL.03-3663-8891 FAX.03-3663-8895 MAIL info@rad-ar.or.jp

*RAD-AR:Risk/Benefit Assessment of Drugs-Ana

医薬品に本来備わっているリスクとペネフィットを科学的、客観的に評価、検証し、その結果を社会に提示することで医薬品の適正使用を促し、患者さんのメリットに寄与するという一連の活動。



<https://www.rad-ar.or.jp>

事業内容

1 ミルシル プロジェクト —医療・医薬品情報を “見る・知る”サイトの構築

医療用医薬品に関する情報を、患者さんにわかりやすい表現でA4一枚程度で記載した服薬説明書「くすりのしおり®」。英語版も作成を進めています。2019年の閲覧数は、月平均1,300万ページビューを記録し、多くの方にご覧いただいています。今後、より一層役立つものにするため、患者さん等のニーズを踏まえ、内容の見直しを図っていきます。また、「くすりのしおり®」を入り口として、患者さん向け情報を連携させ、信頼できる医薬品関連情報を“見る・知る”ことができるサイトに再構築していきます。

1997年 くすりのしおり®公開開始

「くすりのしおり®」
掲載数
及び協力企業数
174社

協力企業
日本語版
16,423枚

英語版
9,945枚



2 くすりの適正使用啓発のための情報発信とくすり教育支援



医薬品医療機器法に「国民の役割」として、くすりを適正に使用することとくすりについて理解を深めることが明記されたことを受け、妊娠婦、保護者、高齢者の各対象向けやバイオ医薬品、ポリファーマシーについての啓発資材も提供しています。

また、くすり教育の重要性を唱え、小中高生向けの各種教育資材や模型教材を開発し、教育者に提供・貸出しています。2007年からは教育者を対象にくすり教育に関する研修(出前研修)を開始し、これまでの受講者数は1万人を突破しています。今後も引き続き、対象に応じて効果的な資材開発を進め、情報発信・啓発方法を開拓していきます。



2007年 くすり教育出前研修開始

これまでの出前研修
受講者数と件数
10,008人 154件

2017年「妊娠・授乳とくすり」サイト公開

サイトへのアクセス数
累積 82万 アクセス

3 薬剤疫学の啓発と データベース活用の基盤整備

当協議会は創立以来、医薬品のリスクとベネフィットを科学的に評価する手法「薬剤疫学」の普及とその活用を推進してきました。その一環として、2003年より「薬剤疫学入門セミナー」を開催し、2017年からはグループワーク型セミナーを開催しています。今後は、リアルワールドデータを活用し、一企業では取り組みが難しいデータベース研究を実践するため、その基盤作りにも取り組みます。



2003年 薬剤疫学入門セミナー開始

これまでの薬剤疫学入門セミナー受講者
2,275人